

陳情第2号

学校適正配置計画（案）とこれまでの経過について

徹底した審議を求める要望書

令和4年2月8日付けで受理した別紙の陳情書を、議会運営委員会の決定により
配付する。

令和4年2月25日 配付

京丹後市議会議長 金 田 琮 仁



2022 年 2 月 8 日

京丹後市市議会
議長 金田 琮仁 様

学校適正配置計画（案）とこれまでの経過について 徹底した審議を求める要望書

京丹後市
奥丹後地方教職員組合
執行委員長 岡 みゆき

日頃は市民のくらしと命を守り、安全で安心できる京丹後市をつくるためご努力いただいていることに敬意を表します。

【要望の趣旨】

「学校適正配置基本計画（案）」について、文教厚生委員会では精力的に質疑等していただいてきましたが、まだ多くの疑問点等が解消されていません。

- ①統廃合は、教育権の主体である子どもたちが、自分が生まれ育つ地域で教育が受けられなくなります。その点について十分な審議が行われたとは言えません。
- ②「複式学級ができる学校は統廃合」という考え方について、委員会でも十分な検討が行われていません。昨年 5 月の文教厚生委員会では、一次計画の際にも十分な論議がされなかったことが議論されていますが、今回も不十分なままです。

今日の人口減少社会で全国の学校の小規模校化が進んでおり、教育研究者の中で小規模校教育の良さの見直しが進められています。「人数が減る」ことを理由に統廃合することはこの流れに逆行するものです。

- ③今日の学校には不登校、発達上の課題を持つ子、家庭的な困難を抱える子、ICT 教育への対応、コロナ禍の教育活動、貧困と格差が教育や子どもの育ちに与えている問題等様々あります。これらの課題に立ち向かうために小規模校は優位性を持っています。
- ④コロナ禍で少人数学級の世論が高まり、段階的な 35 人学級がスタートしました。しかし 35 人は少人数学級とは言えません。今日の教職員は無定量的長時間労働に晒され、教師の本務である教材研究の時間は勤務時間外でしか確保できない実態、休憩時間も、振替も取れない中で、一人一人の子どもの個性を輝かせたいと願って教育活動をしています。教職員の能力をもっと発揮するためには教員を増やし、学級規模の小規模化が必要です。
- ⑤学校では一人一人存在価値を持った子どもたちが学んでいます。子どもの成長や発達を考えるなら、今通っている学校の教育の条件整備を進めることが先決です。学びの主体は子どもです。その子どもを支えるのが保護者・住民です。子ども、保護者、住民が望んでいる学校を維持・発展させるのが教育行政の責務です。

【要望事項】

- 1 「京丹後市まちづくり基本条例」の精神に則り住民・保護者の理解を前提にして審議を進めてください。
- 2 保護者や住民が望んでいる学校を応援する立場で審議してください。
- 3 「計画（案）」の中身やこれまでの説明会での説明についての疑問や矛盾を解消するよう審議を尽くしてください。

以上